

長崎高教組

定通部だより

2015年9月1日
第3号
発行責任者 烏山隆弘

ホームページ <http://nagasaki-kokyoso.org>
メールアドレス info@nagasaki-kokyoso.org

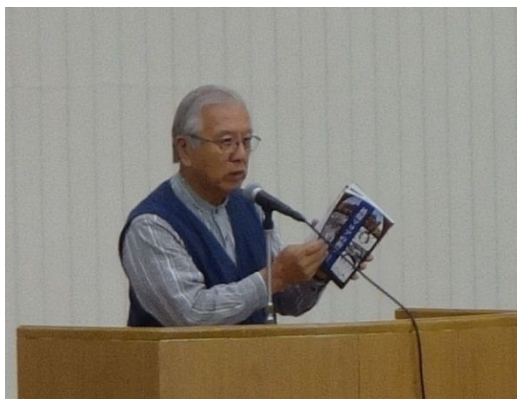
2015年全国定通教育学習交流集会 in 京都

テーマ「学校と社会をつなぐ ～ともに学び生きる定通教育～」

- ・日程・会場 2015年7月25日～26日 京都市 ルビノ京都堀川
- ・参加者 濱本 功二（佐中夜）、山本 朋子（佐中通）、烏山 隆弘（鳴滝夜）

（1）講演「平和憲法と主権者教育」

講師 安齋 育郎さん（立命館大学名誉教授、立命館大学国際平和ミュージアム終身名誉館長）



9人兄弟の末っ子として東京で生まれ、幼少期を疎開先の福島で生活。東大工学部原子力工学科第1期生。工学博士。東大医学部助手、立命館大学経済学部教授、国際関係学部教授を歴任し、現職。現在75歳の先生は、毎月福島に通いながら、福島県各地で放射線低減方法の提言・実践活動に取り組まれています。TV出演は、日本テレビ「世界一受けたい授業」、NHK「あさイチ」「クローズアップ現代」他、多数。著書も多数。受賞歴も国内外から科学・平和・文化各分野で多数。国境なき手品師団名誉会員としても活躍中。

講演の概要は以下のとおりです。

「平和とは何か？」

平和の定義に始まり、暴力の構造、主権者教育の在り方と教育の中立性について話されました。平和の定義が「戦争のない状態」から「暴力のない状態」に拡大している。暴力を「能力が豊かに花開くのを阻む原因」と定義した上で、次の3つに分類。

- ① 直接的暴力：戦争ではウソ、謀略、非人道の極致が展開される
- ② 構造的暴力：人間の可能性が全面開花するのを阻んでいる社会的原因
- ③ 文化的暴力：命をないがしろにしたり、差別を助長する文化

文化的暴力の事例として、「福島県産」等、人や物にレッテルを貼り、実態とは異なる風評で人を苦しめることや、「批判がましいマスコミは潰すべし」という抑圧的・高圧的雰囲気やを挙げられました。

「教師としてどうすればよいのか？」

教育を「知識供与型」から「主体形成型」へ移行し、主体的に学び・考え・行動する主権者を育てるべきである。「全部ホントのことを言って全体としてウソをつく方法がある」という加藤周一氏の言葉を引用し、事実提示の方法論を説明。教壇禁欲性に配慮しながらも、押しつけがましい形でなく、人類知として一定の批判力を持つ人間を教育できるかが重要。教師は価値観が問われる存在であり続ける。

数値や事実関係等、客観的命題を多用しながらも、講演の核心部は主観的命題でした。つまり、科学的に冷静に現状を分析しつつ、熱く淀みなく、しかも分かりやすく話されるその姿は、オーラを発しているように見えました。

講演には、「さよならアトミック・ドラゴン 核と原発のお話」の著者、長崎市出身の漫画家西岡由香さんも参加されました。

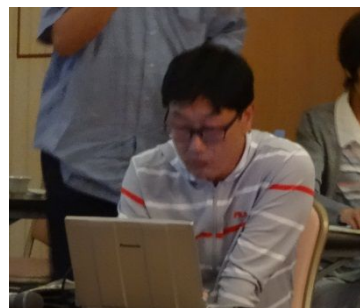
(2) 特別報告①「学校でのSSWの活用について」

講師 高木 久起さん(和歌山県立紀の川高校教諭)

SSW配置2年目の和歌山県でコーディネーターとしての活動報告。先進的な取り組みで、全国で活用できる情報が満載でした。SSWやSC、COや学級担任等の個人的取り組みではなく、支援委員会に代表されるチーム体制での取り組みが特徴です。支援委員会の協議回数は、なんと426回(2014年度)。実践報告や事例紹介は大変参考になりました。

成果として、①不登校生徒がより安心して通える、②関係機関とのネットワークの広がりと深化、③教職員間の連携と協力(誰もが窓口、早い対応)④SC・SSWとの連携を挙げています。

課題として、①SSWの勤務条件、②無資格の準SSW(退職校長等)、③就労等が挙げられました。報告後のしゃべり場でも、たくさんの質問・意見が寄せられ、会場は熱気に包まれました。



(3) 高校生フォーラム

桃山高校定時制DVD「リスタート」。構成、音楽、ナレーション、写真、イラスト等を生徒3人が担当し、生徒会職員が作成。3人の育ちや悩み、夢を編集した自分史DVD。感動的な内容でした。

続けて、全国から参加した7人の高校生(15歳~40代)によるフォーラムが行われました。

朝日新聞記者、中塚久美子さんをコーディネーターに意見交換。①現在困っていること、②定時制通信制に通うようになった経緯、③家族、④生徒会活動、⑤仕事、⑥夢や目標、⑦18歳選挙権等の話題で盛り上がりました。

18歳選挙権については、ほとんどの生徒が必要ないと述べました。理由は、社会や政治のことをよく知らないから。「選挙権の年齢を引き下げるのであれば、学校で政治のことや社会の仕組み等をきちんと教えてほしい。」という方向で議論は落ち着きました。

今年は長崎からの高校生参加はありませんでしたが、来年は長崎からも参加者が出るといいですね。



(4) 特別報告②「社会的不適応を起こす子ども達とその関わり方」

講師 小西 好彦さん(早稲田大学非常勤講師、奈良少年刑務所教育専門官)

「人を立ち直らせるのは人」「人をダメにするのも人」という言葉で始まった報告。受刑者一人ひとりのドロップアウトした問題性を見だし、それぞれの更生プログラムを計画、実行されている。

社会的不適応を起こす人の5つの共通点(①感情麻痺・鈍麻、②頼らない、③劣等感、④価値観の歪み、⑤人間不信)や人間の行動は①自己評価の高低と②価値観で決定され、周囲の人に大きく影響を受けることを話されました。

社会的不適応の入口である万引き行為は、貧困が原因ではなく、①何でもいから盗む←②友達になりたかった←③孤独が原因であることが多い。思考傾向として、①主観的(被害者の「わたしばかり…」)、②他罰(暴力行為の加害者側が「あいつの方が悪い」)、③白黒つける、④過小・過大、⑤過度の一般化。



家庭の機能は安心と安全の提供、つまり、ありのままの自分でいられること。愛情欲求が満たされずに愛情飢餓状態(傷つき)で、価値観も歪んでくる。愛してほしい、認めてほしいという気持ち満たされないまま成長し、ありのままでは愛されないから、無理して頑張る。感情を表出できなくなり、不安から偽自分を作り出す。

負の感情の多重構造は、外側から不満→不安→本音。

更生で大切なことは、①聴くことと②見ること。聞ける=待てる→信頼関係を構築。挫折はチャンスと捉え、①希望と可能性を持たせる。②努力と道筋の結果を見せる。熱く語られる姿は、まさにプロフェッショナルでした。

見立ての方法（表現したい欲求がどのレベルなのか、行動観察や言動から見立てる）

自己実現	
承認欲求	……注目が欲しい、権威を見せたい
所属欲求	……話し相手が欲しい
安心欲求	……弱いと思われたいため
生理的欲求	……苦痛回避、八つ当たり

(5) パネルディスカッション「学校と社会をつなぐ」

- ・コーディネーター 佐古田 博さん
(京都府高教組前委員長)
- ・パネラー① 東海林 智さん
(毎日新聞記者・厚労省担当)
- ・パネラー② 藤木 祥史さん
(支援コーディネーター・元中学教師)
- ・パネラー③ 谷口 藤雄さん
(京都府立高校特別支援・進路支援教員)



- ・学校では働くことの厳しさだけを教え、労働者の権利について何も教えていない。(東海林さん)
- ・1970年代以降、荒れた学生に寄り添ってきた。(藤木さん)

会場からの発言や情報提供

- ・個々の事例を積み上げて、共有化、制度化を目指す。(京都府S S W 2名)
- ・「学校説明会参加証」を高校入試出願時、提出書類に貼付するシステムになっている。(福井)
- ・生徒の就労問題等、1つの定時制高校だけでできる範疇を超えている。地域全体として連携して取り組む必要性を感じる。(福井)
- ・生徒のアルバイト等労働契約書を校長へ提出させている。(大阪)
- ・ブラックバイトで友人が困っている。(高校生)

コメンテーターによる集会のまとめ 中塚久美子さん(朝日新聞記者)

各パネラーが持論を展開し、特に討議の柱を設定しないまま、リレートーク的に進んだ。会場からの発言も求める形で、さらに拡散した討論を的確に要約されました。流石です。

2015年度全教定通部定期総会

- ・日程・会場 2015年7月24日
- ・参加者 濱本 功二(佐中夜・全教定通部事務局次長)
烏山 隆弘(鳴滝夜・代議員)、山本 朋子(佐中通)



日高教定通部から全教定通部になり2回目の総会が、7月24日に開催されました。

まず、2014年度の運動の総括を行い、その後2015年度の活動方針を決定。役員改選では、佐世保中央定時制夜間部の濱本先生が全教定通部常任委員から、今年度新たに事務局次長に就任することになりました。

討論は、①授業料(修学支援金、奨学給付金)、②統廃合、③生徒の就労やS S Wを含めた教員配置、賃金、権利等の3本の柱で展開しました。

討論の中で、本県からはS S W導入までの経過、配置から2年目の現在の状況等を報告しました。また、教員配置において学校間格差が大きいことも報告。ほぼ全員が正規職員の学校がある一方で、講師が担任を受け持ったり、再任用の先生が主任をせざるをえない学校がある事例を報告しました。

全国調査を行なった①養護教諭配置、②統廃合、③S S W配置と活用実態等を濱本先生が説明しました。支援金や給付金についても依然として全国的に混乱が続いています。他に長期休業中の勤務時間や駐車料金、フレックス学校と称した多部制学校創設による統廃合等も話題となりました。

参加者の感想

山本 朋子（佐中通）

「行ってよかった」、「よく行かせていただいた」が、今の私の気持ちです。

1日目の総会を傍聴させていただき、その後、安齋育郎立命館大学名誉教授のユーモアあふれる講演を拝聴し、恥ずかしながら、今まで全く知らなかった新たな世界、本当ならばもっともっと早く知っておくべきであった情報に触れ、刺激を受けました。夜は、京都の保護者の方と雑談をしたり、佐賀県の先生方と交流したりするなど、全国の教師や保護者の生の声を聞き、心安らかな気持ちになりました。「みんな、そう思っているんだ」と。

弱者に対する人間愛のない現政権の施策や風潮は学校現場にも及び、それに対して違和感を持っていながらそれで終わっていた私ですが、「しっかりと自分の意見を持たなければいけない。」と強く思いました。ただ、そのためには広く他人と交流することが大切ではないでしょうか。全国の定時制通信制高校でのさまざまな取組みや問題点の報告は大変勉強になりました。次は、私も声をあげ、行動が伴うように・・・と思っています。

濱本 功二（佐中夜）

安齋育郎さんの講演では、マジック、手品を例にして、「人間がいかにかまされやすいか」についての話で始まり、憲法の内容、原爆、原発など多岐にわたり示唆に富んだお話が続き、また、福島の風評被害についても科学的なデータを基に考えていくことの重要性を説かれています。奈良少年刑務所教育専門官の小西好彦さんは、「人間の行動が自己評価（自尊心）の高低と価値観によって決定される。自己評価の高低と価値観は周囲の人によって決定される。」と話されていました。多くの問題と向き合わざるを得ない定時制・通信制の生徒たちと接する時にヒントになる言葉だと思いました。

暑い京都で全国の教職員のみなさんと有意義なひとときを過ごせました。来年は8月の第1週に埼玉県で開催される予定です。定通部の学校も多忙化が進んでいますが、多くの先生方に参加していただき、講演や県外の教職員の先生方との交流をしていただければなあと思いました。

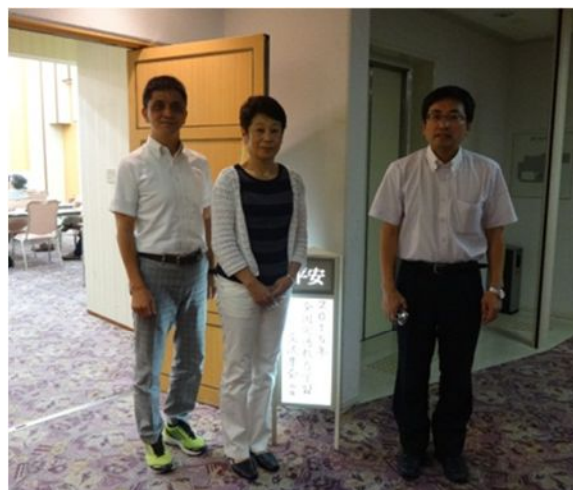
烏山 隆弘（鳴滝夜）

18歳選挙権の来年夏適用を前に、平和憲法と主権者教育について学習を深めました。

安齋先生のパワーに圧倒され、90分の講演はあっという間でした。小西先生や高木先生の報告も教育現場で活用できる情報が満載でした。

他に、就学支援金・奨学給付金の制度や手続きについて学習を深めたり、SSW活用方法や学校統廃合、多部制について情報交換ができました。全国の先生方、生徒や保護者、専門家みなさんと交流を深めることができ、大変有意義な研修となりました。

会場で配布されるたくさんの資料の中にあつた佐賀高教組新聞。「今年度新規加入 95名、うち初任者 42名」という文字が紙面に躍ることなく、淡々と記載されていたことも印象的でした。長崎も仲間をどんどん増やしましょう!!



左から烏山、山本、濱本

九州・中国・四国ブロック

定通部学習交流集会のお知らせ

10月31日（土）～11月1日（日）



香川県琴平町で開催されます。

詳しい案内は後日各分会に送ります。

皆様の積極的な参加をお待ちしております。